

第1章 検証の目的・位置付け

第1節 検証目的

- ・令和6年能登半島地震では、富山県における観測史上最大の震度5強を記録し、津波警報発表時の避難行動や避難所の開設など、様々な面で課題が顕在化
- ・地域防災計画をはじめとする各種計画やマニュアルを見直し、防災体制の強化充実を図るため、県、市町村、関係機関、県民等の初動対応、応急対策を検証し、改善の方向性を整理

第2節 検証項目

- ・県・市町村における振り返り会議の意見をもとに、14の検証項目を設定

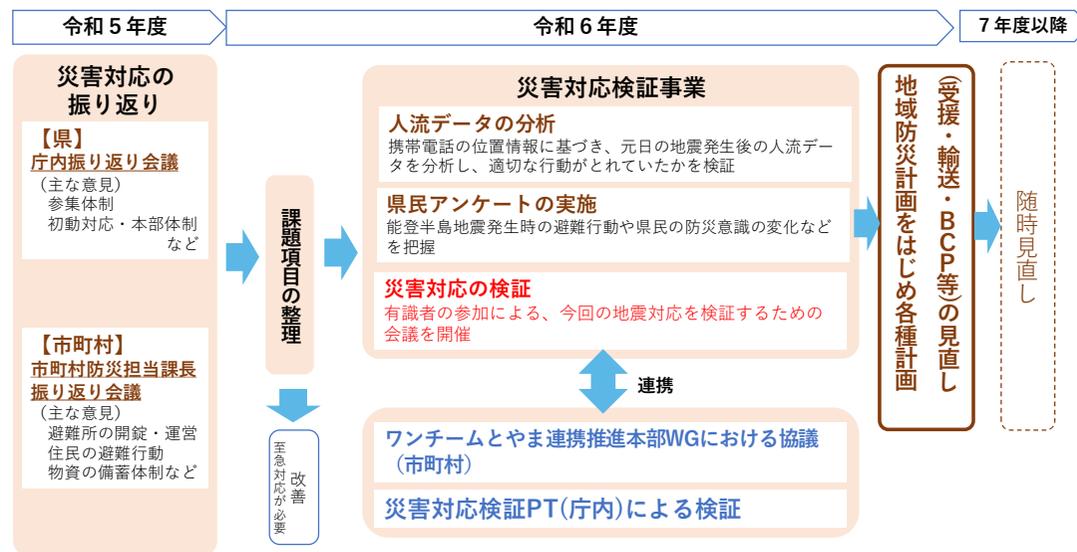
図表 検証項目一覧

① 情報収集・伝達	⑨ ボランティア
② 広報活動	⑩ 災害廃棄物
③ 避難行動	⑪ 事前の備え(住民への啓発、上下水道・住宅耐震化、液状化対策等)
④ 避難所開設・運営(被災者支援)	⑫ 孤立集落対策
⑤ 物資の備蓄・支援	⑬ 道路啓開計画
⑥ 飲料水・生活用水の確保	⑭ 行政の経験蓄積・共有
⑦ 災害対策本部の体制・運営	
⑧ 県・市町村・関係機関の連携	

第3節 検証体制・進め方

- ・防災分野の有識者5名(座長:室崎 益輝 神戸大学名誉教授)、及び富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、射水市の防災・危機管理部門から各1名を委員に選任
- ・国(富山河川国道事務所、富山地方气象台、伏木海上保安部、陸上自衛隊第14普通科連隊、陸上自衛隊第382施設中隊、自衛隊富山地方協力本部)、富山県消防長会、富山県医師会、日本赤十字社富山県支部、富山県社会福祉協議会、富山県防災士会、中日本高速道路株式会社金沢支社がオブザーバー参加
- ・災害対応検証会議に合わせ、県民アンケート、人流データの分析を実施し、避難行動等を分析(庁内外の関係会議とも連携)

図表 検証の進め方



災害対応検証報告書の構成(案)について

第4節 検証会議

・下記の日程・内容で検証会議を開催

図表 検証会議日程・内容

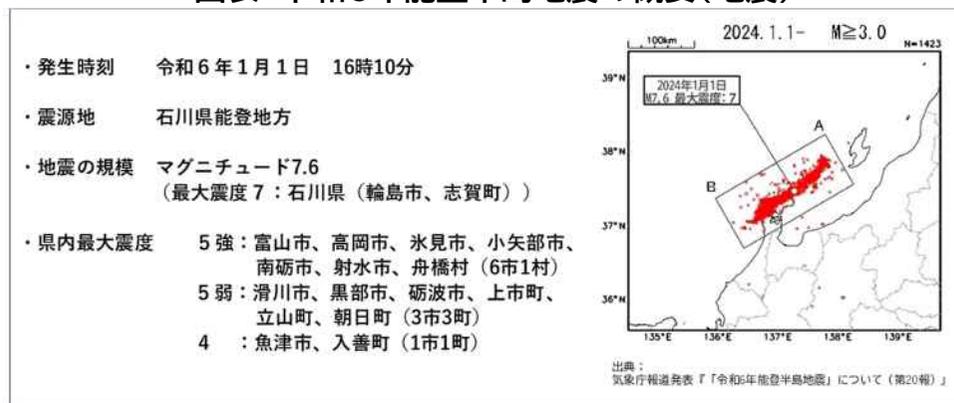
日時	検証会議	主な内容
令和6年5月28日	第1回	・検証の進め方、検証項目等について
令和6年7月3日	第2回	・検証項目①、②、⑦、⑧について
令和6年8月19日	第3回	・検証項目⑤、⑥、⑨、⑩、⑫、⑬
令和6年8月30日	第4回	・検証項目③、④、⑪、⑭
令和6年10月2日	第5回	・検証報告書骨子(案)について
令和6年12月18日	第6回	・検証報告書(案)について
令和7年1月以降	第7回以降	・各種計画・マニュアルの見直し

第2章 令和6年能登半島地震の概要等

第1節 地震

・発生時刻、震源地、地震の規模、県内の震度等(右上図)

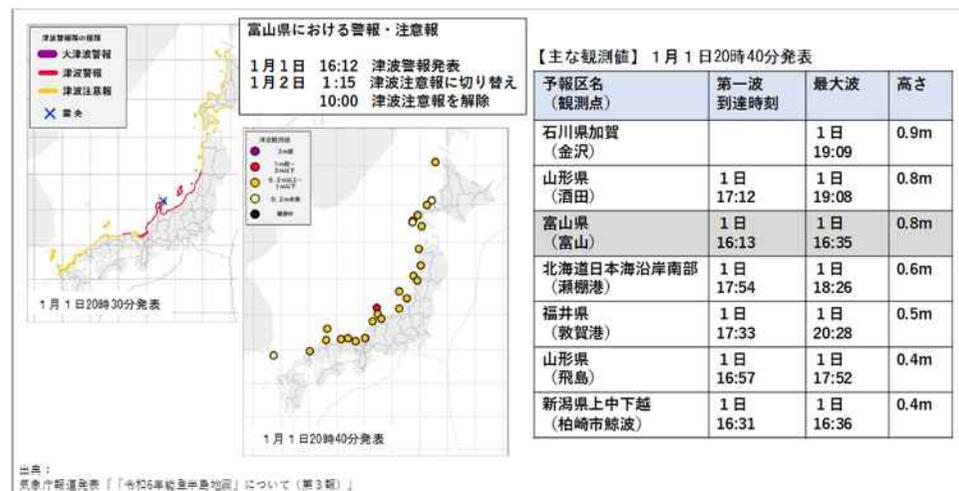
図表 令和6年能登半島地震の概要(地震)



第2節 津波

・県内の警報・注意報、津波の観測値等

図表 令和6年能登半島地震の概要(津波)



災害対応検証報告書の構成(案)について

第3節 県内の被害状況

- ・人的被害・住家被害、避難所の開設状況、水道施設、公共土木、
- ・b農林水産、文化財関係、観光需要等に関する県内の被害状況

図表 県内の主な被害状況

(1) 人的被害 (R6.9.30時点)

- ・ 56名 (災害関連死2名、重傷13名、軽傷41名)

(2) 住家被害 (R6.9.30時点)

- ・ 21,987棟
全壊：257棟、半壊：797棟、
一部破損：20,926棟、未分類：7棟

(3) 避難所の開設状況 (R6.9.30時点)

- ・ 避難所数 417箇所 (R6.1.26ですべて閉鎖)
※津波警報の影響で、最大で約15,000人が避難

(4) 水道施設の状況 (R6.9.27時点)

- ・ 6市18,937戸で断水
(R6.1.21ですべて解消)

(5) 公共土木 (R6.8.29時点)

- ・ 397箇所 (県118箇所、市町村279箇所)
道路、河川、砂防、港湾、公園、下水道、橋梁、
海岸(港湾)

(6) 農林水産 (R6.9.27時点)

- ・ 2,862箇所
農業：95箇所、土地改良：2,478箇所、
森林林業：63箇所、水産業：226箇所

(7) 文化財関係 (R6.9.27時点)

- ・ 70件
(国指定:21件、国登録:32件、国選定:3件、県指定:14件)

(8) 観光需要 (R6.1.31時点)

- ・ 1月分の推計(平年同期との比較)として、
▲86,209人、▲20億1,366万円 の需要減

第4節 県および関係団体・機関の主な対応

- ・検証項目に関連する県および関係団体・機関の主な対応を一覧表およびタイムライン形式により整理

第3章 災害検証

第1節 情報収集・伝達

※以降、第14節 行政の経験蓄積・共有まで同じ構成により整理

1. 計画

地域防災計画等で定める内容を記載

2. 主な対応

令和6年能登半島地震における主な対応の状況を記載

3. 円滑に対応できた点

円滑に対応できた点を記載

4. 課題と改善の方向性

令和6年能登半島地震で顕在化した課題と改善の方向性を記載
(※課題となった背景や改善の方向性の考え方も記載する)

第4章 スケジュール

- ・検証会議における改善の方向性を踏まえ、検証項目・対象機関ごとに短期的対策・中期的対策を整理
- ・短期的対策は1～2年以内、中期的対策は3～5年を目安とする。